



# 西都市立穂北小学校 外国語教育の取組の紹介

公開実施日

令和2年11月20日(金)

参加者 40名

令和2年11月20日に、穂北小学校の全ての先生方に協力をいただき、外国語教育の授業公開が実施されました。外国語教育推進TT加配校として、平成30年度より3年間の研究指定を受けての公開でした。第3学年から第6学年までの4学年が同時に授業を公開しました。本年度より、新学習指導要領が全面実施となった小学校において、外国語活動(第3・4学年)や教科化された外国語科(第5・6学年)の指導に悩んでいる先生が多い中、大変参考になる素晴らしい授業実践が公開されました。コロナ禍ということもあり、児湯地区のみの参加募集となりましたので、新学習指導要領のポイントを踏まえながら、紙面にて穂北小学校の各学年の先生方の実践を紹介いたします。

## 第6学年 ALTの役割の明確化

甲斐正樹先生、Richard White先生の授業では、“I have a dream.”の単元(Junior Sunshine 6 Lesson 10)で次のような指導の工夫が見られました。ALTとのチーム・ティーチングの授業において、英語で学習をスタートした後、34名の児童を半分ずつに分け、片方を担任、もう片方をALTが担当して、個別に数名ずつ既習の英語を使いながらやり取りをしていきました。また、児童が将来就きたい職業やその理由について英語で話す活動のときに、ALTは“You want to be a~.”、“You can~.” Oh, comedian!”などの英語の語句や表現等で児童に尋ねて回りながら、話すために必要な既習の英語を、児童自身から引き出させる役割を果たしていました。ALTにどの活動のどの部分で、どのような役割をお願いするのかを明確にした素晴らしいチーム・ティーチングの授業でした。



ALTとやり取りのお手本を提示

### ☆新学習指導要領のポイント①★

外国語教育においては、中学年、高学年ともに子どもに身に付けさせたい資質・能力を「言語活動を通して」指導することが求められています。外国語活動や外国語科における言語活動とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味します。つまり、英語は用いているものの、考えや気持ちを伝え合う要素がない活動は言語活動とは言えません。また、英語を全く用いず、日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成している活動も言語活動とは言えません。児童が実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うことができるようにするために、ALTや地域人材などを授業の中で積極的に活用し、指導者の役割を明確にしなが、指導をしていくことが大切です。

## 第5学年 評価領域の精選

井川智子先生の授業では、“My Hero”の単元(Junior Sunshine 5 Lesson 6)で次のような指導の工夫が見られました。評価計画では、関係する領域から、話すこと[発表]と書くことの2領域に絞って単元の評価規準が計画されていました。評価する領域を絞ることで、できる限り無理のない計画で指導と評価が可能となります。また、話すこと[発表]の「主体的に学習に取り組む態度」は、見取るための時間が必要なことから、次単元とあわせて、記録に残す評価を行うなどの工夫がなされていました。無理のない計画的な評価の在り方として、井川先生のモデルはとても参考になります。また、本時の目標「友達や自分のヒーローの得意なことをbe good at~を使って表現することができる」を達成するために、既習表現や本時の表現を意図的に織り交ぜながら、指導者がクイズ形式で英語で話していました。さらに、児童にゴールイメージを持たせたり、絵カードを使って練習し、チェーンゲームなどで楽しませながら練習を重ねた上で、グループトークに入ったりするなどの児童の実態に応じた指導が展開されていました。



クイズ形式やゲーム形式を活用

### ☆新学習指導要領のポイント②★

外国語活動では、3領域の3観点で合わせて9項目、外国語科では、5領域の3観点で合わせて15項目の評価を2年間でバランスよく評価していかなければなりません。評価を計画的に行うためには、各学校で年度初めに、3・4年、5・6年の各2年間を通して、どの単元でどの項目を重点的に評価していくのかを確認して指導をすることが大切です。また、各単元の指導においても、1~3領域に絞って計画的に無理なく評価していくことを意識していきましょう。

## 第3学年 言語活動の充実 (ヒントプリーズカードの活用等)

大串祐子先生の授業では、“What’s this?”の単元(Let’s Try!1 Unit 8)で次のような指導の工夫が見られました。本単元のゴールの活動となる、Eクイズ大会に向けて、「どのような英語の語句や表現等を使ってヒントを出せば、聞いている友達に上手に伝わるか」ということをオリジナルのワークシートを活用しながらペアで考えさせました。ペア活動を設定することにより、児童自身がヒント自体を見直したり、出す順番を入れ替えたりしながら、よりよいクイズにつながるように授業が展開されていました。どうしても思考が進まない児童やペアについては、児童自らが「ヒントプリーズカード」を先生に提示し、一緒に考えるなど、初めて外国語活動を学習する学年である児童の発達段階や個人の学習状況に応じたきめ細やかな工夫が見られ、言語活動の充実が図られていました。



外国語を用いる楽しさを実感する児童の姿

### ☆新学習指導要領のポイント③★

外国語活動では、「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」の三つの領域において英語の目標が設定されています。3年生には、初めて外国語に触れる子どもたちがたくさんいます。そこで、最も大切にしたいことは、「**外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを十分に体験させること**」です。**体験的な気付き**が、高学年以降の外国語学習への意欲にもつながっていきます。学習を始めたばかりのため、子どもたちの語彙や表現は限られていると思いますので、穂北小学校の実践のように、例えば、次のようなコミュニケーション上の「5つのポイント」を大切に指導をしていくと、言語面、非言語面の両面において、より豊かなコミュニケーション能力が養われていくことになります。

#### 【コミュニケーション5つのポイント(例)】

①**Eye contact**…アイ・コンタクト：目を見て、②**Gesture**…ジェスチャー：身振り手振りも時には用いさせてコミュニケーションをとらせるなど、中学年のうちに非言語面も意識させて、③**Clear Voice**…クリア・ヴォイス：相手との距離に応じて適切な声の大きさではっきりと、④**Smile**スマイル：笑顔を大切に、表情豊かに、⑤**Reaction**…リアクション：Ah, Oh, Wow! I see.などの反応を大切にしながら双方向のやり取りを大切にしていきましょう。

## 第4学年 目的や場面、状況等の明確な設定

高須力樹先生の授業では、“What do you want?”の単元(Let’s Try!2 Unit 7)で次のような指導の工夫が見られました。単元の目標の中に、初めは「ALTに食べてほしいオリジナルピザを作り紹介合うために、…」という目的、場面、状況等の設定をしていました。しかしながら、研修や検討を校内で重ねた結果、ALTだけではなく、児童にとって身近な先生を2名加えて、計3名の先生が食べたい、種類の異なるピザ(パワーアップピザやヘルシーピザなど)について簡単な英語で話す短い動画を作成することになりました。このことにより、児童に「どの先生にどのような具材を使ってピザを作ればいいのか」という思考が生まれるとともに、「自分が作ったオリジナルピザをあの先生に食べてほしい」という思いをさらにもつことができるように目的や場面、状況の設定における工夫が見られました。



ピザの材料を集める児童

### ☆新学習指導要領のポイント④★

新学習指導要領における外国語教育のポイントの一つとして、言語活動を行う「**目的や場面、状況等**」の**設定**が言語活動の肝と言われています。これらが指導者によって、**明確に設定**された上で、目の前の子どもたちと**共有**されてはじめて、学習評価の観点に沿って見取ることができます。すなわち、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の観点において、子どもたちが学習の目的や場面、状況に応じて、思考したり、判断したり、表現したりする、また表現しようとする姿を見取ることができます。

なお、「**主体的に学習に取り組む態度**」については、「**指導と評価の一体化**」のための**学習評価に関する参考資料の事例4(P77~)**にも記載されているとおり、「**複数単元にまたがって評価を行うため、次の単元で記録に残す評価を行う**」などの柔軟な計画を考えながら、長期的に無理なく評価をしていくとよいでしょう。

参考資料 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語活動・外国語編、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(外国語・外国語活動)、初等教育資料令和元年8月号(No.983)、令和2年4月号(No.992)